

## 第2次日進市子ども読書活動推進計画 具体的施策 進捗状況管理表

全23施策 重点目標10件

○…実施済み △…着手した ▲…検討中 ×…未実施、中止(コロナ)

※施策の実施状況の内、5年度の実施状況は10月現在のもの。

大項目 (目標)	中項目 (分野)	小項目 (各施策)	施策の概要	具体的実施方法	直近の年の実施内容	施策の実施状況				
						4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
<b>基本目標1 家庭、地域、学校等における取組</b>										
<b>1 家庭における子どもの読書活動の推進</b>										
		(1)家庭における読み聞かせの充実	読み聞かせは子どもの健全な感情や集中力を育む手法のひとつとして定着しており、今後も啓発と推進に努める。	家庭における親子のふれあいの場として市立図書館の児童コーナーや、「おはなしの部屋」での読み聞かせ等を紹介することで気軽な参加を促す。	毎週2回おはなし会を実施したほか、図書館ボランティアグループの企画で様々なおはなしイベントを開催した。また、家庭での読み聞かせに役立つお勧め本のパンフレットを作成して配布した。	○	○			
		(2)ブックスタートへの参加促進	市保健センターで実施しているブックスタートの内容や周知方法等について、健康課と市立図書館との更なる連携を図る。	ブックスタートに図書館からスタッフやボランティアを派遣し、赤ちゃん絵本の紹介や読み聞かせ、図書館の紹介などを行う。	ブックスタートで図書館の利用につながるパンフレット等を提供して配布した。コロナの5類移行後は読み聞かせが再開され、現在は保健センターでボランティア養成もしている。	×	○			
		重点 ブックスタートへの参加率100%達成		何らかの事情により、ブックスタートに参加できなかった市民に、赤ちゃん絵本や図書館における乳幼児読み聞かせなどを紹介する機会を設ける。もしくは通知・訪問する。	ブックスタートに参加できなかった方に通知等を送る機会を捉えて、QRコード付きのカードから図書館ホームページのブックスタート専用ページに誘導し、図書館のおはなし会への参加や利用につなげていく。	×	△			
<b>2 地域における子どもの読書活動の推進</b>										
		(1)地域における読み聞かせの充実	市内の各保育園や幼稚園、子育て支援センター、児童クラブ、放課後子ども教室等地域における幼児期の子どものための読み聞かせの充実を図る。	幼児期の子どもは様々な絵本と触れることから読み聞かせを重要な機会として捉え、多様な年代・発達段階に応じた様々な読み聞かせを実施する。	各施設の依頼に応じて、図書館の読み聞かせボランティアの派遣や、読み聞かせに必要な絵本や紙芝居、大型絵本などの配送による団体貸出を行った。	○	○			
		重点 各地域における読み聞かせの実施		市立図書館が各地域との連絡体制を整え、需要に合った読み聞かせボランティアを派遣し、地域の各施設の読み手と共に読み聞かせを実施する。	児童クラブ及び放課後子ども教室で図書館ボランティアによる出張読み聞かせを行った。保育園や幼稚園はすでに保育士による読み聞かせが行われていることから、機会があればコラボ事業として行っていく。	▲	○			
		(2)多言語本の提供	外国籍の家庭をはじめ、日本語が読めない子どもの図書利用について、必要に応じて地域と連携し、様々な言語による対応に努める。	保育園や幼稚園と図書館との連絡体制を整え、相互貸借を含む多言語図書の貸し出しを行う。	クラウドファンディングの活用により英語圏以外の幅広い国の多言語絵本の購入を進めた。保育園や幼稚園へ多言語絵本の貸出ができることや所蔵している本について周知していく。	×	△			
<b>3 学校等における子どもの読書活動の推進</b>										
		(1)学校における読み聞かせの充実	学校における読み聞かせは、本への興味を持つこと以外に、人の話を集中して聞く、聞いた言葉から物事を想像する等、子どもの発達に効果があるとされており、より一層の充実を図る。	小学校では絵本や紙芝居を用いた読み聞かせを、中学校、高等学校ではストーリーテリングやブックトーク等、各年代に対応した手法で読み聞かせを行う。	読み聞かせボランティアへの支援を継続して行っている。今後、ストーリーテリングやブックトークを行える高度な知識と訓練を行ったボランティアの育成を検討する。	▲	△			
		重点 全市立小中学校における読み聞かせの実施【新規】		図書館スタッフや読み聞かせボランティアを派遣する。	読み聞かせボランティアを派遣できる態勢を整え、市内小中学校の校長会を通じてボランティア派遣について周知した。	×	△			
		(2)ティーンズ向け図書の充実	思春期を迎える子どもは心理面の変化から読書離れが進む時期であり、読む本が児童書から一般書へ移行する時期でもあるため、年齢に合わせた図書の収集に努める。	ヤングアダルトコーナーの蔵書の充実を図るとともに、新刊本の情報を定期的に学校へ配信したりティーンズ自身による選書イベントを開催する。	ティーンズコーナーの充実を図り、ティーンズ向けの選書イベントを開催した。	○	○			
		(3)調べ学習の充実	市立図書館と学校図書館が連携し、調べ学習に対応できる体制を整える。	子どもがより積極的に図書資料等を幅広く活用できるよう、学校図書館と市立図書館が綿密に連絡調整し、授業内容に合わせた資料の提供ができるよう配慮する。	学校から依頼があったテーマに合わせてクラスで利用できる冊数の選書と配送による団体貸出を行っている。市内小中学校校長会を通じてサービスの周知を行った。また、調べ学習用に図書館が作成したテーマ別図書リストを公開した。	○	○			
		(4)学校団体貸出の利用促進	市立図書館から学校への団体貸し出しを促進するため、学校事情を考慮した対応を行う。	学校からの様々な要望に対応するため、担当者同士の連絡調整を密にするとともに、学校からの資料要望に対し迅速かつ確実に提供できる体制を整える。	毎月学校司書とオンライン会議を開催した。今年2月からのシステム連携により予約配本の仕組みを新たに取り入れた。	△	○			
		重点 学校へのコンテナ便(団体貸出)の整備及び内容の充実		学習指導要領の変更に合わせ、コンテナの内容を更新するとともに情報が古くなった資料については適宜入替を行う。	学校への特別貸出用に用意したコンテナ便の内容は、依頼の多いものを中心に買替等を行っている。	○	○			
		(5)読書運動の促進	朝読書等の時間を確保し、児童生徒が率先して取り組む環境を作る。	各校において、子ども達自身が読書を意識して取り組む時間帯を設ける。	1人1台タブレットの導入と学校電子図書館の導入により、タブレットを利用して読書できる環境が整備された。学校ごとに設けている読書タイムや短い放課の間に児童生徒が活用できるよう、電子書籍の整備を継続して行っていく。	○	○			
		(6)読書感想文コンクール、読書感想画コンクール等の参加促進	読書感想文・読書感想画を通じて、子ども達が読書に関心を持てるような取り組みを推進する。	既存のコンクール参加について、より一層の啓発に努める。	コンクール参加の支援として、読書感想文の課題図書をなるべく多くの児童生徒に貸し出せるよう貸出期間等を工夫している。また、毎年啓発ポスターの掲示を行っている。	△	○			

※施策の実施状況の内、5年度の実施状況は10月現在のもの。

大項目 (目標)	中項目 (分野)	小項目 (各施策)	施策の概要	具体的実施方法	直近の年の実施内容	施策の実施状況					
						4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
<b>4 市立図書館における子どもの読書活動の推進</b>											
		(1)図書館における読み聞かせの充実	市立図書館の様々な施設・場所を活用することで、子どもに向けた読み聞かせを実施する。	市立図書館での「おはなしの部屋」や視聴覚ホール、また屋外テラスや会議室等従来の実施場所にとられない様々な場所での読み聞かせを実施する。	毎週2回おはなしの部屋で読み聞かせを実施している。図書館まつりや読み聞かせボランティアの主催するイベント、図書館員やTRC職員によるイベントで視聴覚ホールをはじめとする会議室やテラスなどを活用している。	○	○				
		(2)ティーンズ(ヤングアダルト)コーナーの充実とブックリストの活用	図書館のティーンズコーナーを今よりもっと充実させ、市内の中高生の読書需要に応える取り組みを進める。	特定のテーマや分野別の特設展示を行ったり、面出しやコメント添付など、中高生が入りやすい環境を構築する。	ティーンズコーナーの飾りつけを季節に合わせて毎月図書整理日に変更し、様々なテーマで常時ミニ展示を行っている。選書体験会で小中学生が作成したポップを活用した展示も行った。	○	○				
		重点 ティーンズ向けブックリストの定期刊行		新刊本や10代向けにテーマを絞って選定したブックリストを定期的に各学校に送付することで、ティーンズの貸し出し需要拡大を目指す。	年4回『YA壁新聞』発行し、市内中学校及び高等学校へ送付している。	○	○				
		重点 子ども選書体験会の実施		図書館司書が子どもに図書の選び方などを指導し、選書を行う。また児童生徒のコメントを添えるなど、蔵書PRとともに、子ども達が興味を引くように取り組む。	毎年子ども選書体験会を開催している。選書体験会は選書のための研修とポップ作成を行い、作成していただいたポップを活用して図書館で本の紹介をしている。	○	○				
		(3)学校の司書教諭等との意見交換の促進	学校図書館に携わる職員と市立図書館の職員が意見交換する場を設け、互いの事情を把握する事で団体貸出を含め、双方が効果を上げるように努める。	司書教諭・運営補助員等、教育現場において読書活動に携わる教職員と市立図書館職員が意見交換する機会を設ける。	毎月学校司書とオンライン会議を開催した。学校司書と図書館担当教諭の意思疎通が難しいという課題があったため、Microsoft Teamsを活用して関係する教職員と学校司書がチャットをベースに情報共有できる場を提供した。	実施予定	○				
		(4)図書館出前講座の実施	図書館から学校へ職員・スタッフを派遣し、市立図書館機能の周知や利用増を図る。	図書館から学校等へ職員・スタッフを派遣し、図書館の利用方法を説明したり、疑問点などに応える質疑応答を行う。	図書館職員が市内小中学校図書館を訪問して現場視察と学校司書との意見交換を行った。また、毎月オンライン会議を開催して質疑応答の機会を提供している。	○	○				
		重点 図書館出前講座の実施【新規】		学校へ赴く場合は、対象を児童生徒に限定せず、教職員向けも可とする。	毎月の市内小中学校校長会を通じて、図書館をより活用していただくための周知を行っている。学校からの予約配本を開始した。	×	○				
		(5)ボランティア活動の育成支援	読み聞かせを始めとした各団体の活動を充実させるため、市立図書館が基幹となって積極的に支援する。	各団体の育成支援や技術向上を図るための研修会や団体同士の相互交流を実施する。	全ボランティアを対象としたボランティア交流会を定期的に開催している。団体同士から個人の横の繋がりに発展して学びあいの場になっている。	△	○				
		重点 ボランティア交流会の開催		市立図書館で活動する全てのボランティア団体が一堂に会し、相互交流や情報交換等を行う場を設ける。	毎年3～4回の頻度で様々な内容を工夫して「ボランティア交流会」を開催している。	○	○				
		重点 ボランティアによる市立図書館の資料を活用した調べ学習の支援		市立図書館の施設と資料を活用した総合的な啓発事業をボランティア団体と協働して実施する。	図書館まつりをボランティアによる実行委員会形式で実施している。協働してイベントを開催することでスキルアップや日頃の協力体制につながることを期待する。また、毎年ボランティア団体の協力による調べ学習の講座を実施している。	○	○				
		(6)子どもの読書活動にかかる新たな取組の研究	時代の移り変わりによって生じる新たな読書環境を常に研究し、必要な手法の導入について検討していく。	子どもの発達段階に合わせて、読書活動推進につながる取り組みができるよう努める。	読書年齢に合わせて利用ができるように児童室やティーンズコーナーを整備している。小中学生が参加できる講座を実施し、職員が学校を訪問して周知を行った。	△	○				
		重点 ブックトークの開催【新規】		ヤングアダルト世代を対象とした、友達同士で本を薦め合うブックトークの開催を目指す。	ティーンズが同世代で本を通じた交流ができる場になるよう工夫して選書体験会や大学連携事業「ことのは」を行った。	×	○				
		(7)子ども読書の日、こどもの読書週間における取組	国が定める記念日に合わせ、読書に関する啓発を行う。	特定の時期に合わせて、読書活動推進に繋がる取組の実施や周知を行う。	「こども読書週間」に合わせ、パネル展示や特別なおはなし会の実施、本のお楽しみ袋の貸出を行った。	○	○				
		(8)障害のある子どもの読書活動の充実	読書バリアフリー法が制定された事により、様々な理由により読書が困難な子どもに対しての対応が求められる事から支援を行う。	デージー図書、サビエ、LLブック、オーディオブック等既存のツールの利用方法を周知するとともに、UDトークの導入や活用について検討していく。	図書館で様々なメディアの図書を利用できるよう整備を進めている。12月から携帯電話を活用して音声の文字化による窓口対応ができるよう準備している。	実施予定	○				
		(9)多言語本の提供	市内に在住する外国籍の家庭や、日本語が読めない子どもに対し様々な言語による対応を行う。	アメリカンシエルフやクラウドファンディングを活用した多言語絵本を導入し、これらの資料を用いた読み聞かせや貸出を行う。	多言語絵本の整備を進め、今年度は英語の翻訳コミックスの導入でクラウドファンディングを実施している。また、多言語絵本を活用した大学連携講座を開催した。	○	○				

**基本目標2 子どもが読書に親しむ機会を提供できる連携・協力体制の整備**

<b>1 家庭、地域、学校等相互の連携・協力</b>										
	(1)地域ボランティアを活用した読書活動の推進	地域全体の子どもへ読書活動を推進するために、地域に根ざしたボランティア活動を推進する。	各地域において活動するボランティア団体の周知や活動場所の拡充に努める。	ブライムツリー赤池で定期的に英語の読み聞かせボランティアなどによるおはなし会を実施した。	×	○				
	(2)家庭、地域、学校の連携による読書活動の推進	地域全体で子どもの読書を推進するための取り組みを推進する。	市立図書館に「子ども読書活動推進会議」を設け、図書館が中心となって市内の各関係機関から意見徴取や情報交換を行う。	ブックスタートの実施主体である保健センターと本の貸出や読み聞かせボランティアを派遣している児童クラブの事業者(アシスト)をメンバーとして毎年開催している。	○	○				
<b>2 図書館間等の連携・協力</b>										
	(1)広域連携による子どもの読書活動にかかる意見交換	読書活動にかかる最新情報を得るため、近隣図書館との連携を図る。	近隣を含む広域図書館長会議等を活用し、現状分析や新たな情報の把握に努める。	1～2か月毎に開催される広域の図書館会議に出席し情報交換を行った。	×	○				
	(2)他公立図書館等との連携		公立図書館だけでなく、大学図書館との相互貸借も推進していく。	必要に応じて大学に相互貸借を依頼するほか、椋山女学園大学とは協定により、相互貸借の際は配送サービスを無償で受けている。	○	○				